

指示があるまで、このページをよく読んで待ちなさい。指示があるまで、この問題用紙を開いてはいけません。

I 受験に際しての注意

- 1 問題用紙は一ページ（表紙を除く）から十七ページまでである。
- 2 問題の内容についての質問には、いっさい応じない。それ以外のことがらについて尋ねたことがあれば、手をあげて監督者に聞くこと。
- 3 監督者の「はじめ」の合図で始め、「やめ」の合図ですぐやめること。
- 4 解答用紙が折れ曲がったり、破れたり、汚れたりした場合には、手をあげて監督者に申し出ること。

II 解答記入上の注意

- 1 すべてマーク方式で解答を記入すること。
- 2 マークは必ずHBの黒鉛筆を使用して記入すること。ボールペン、万年筆、サインペン等を用いてはいけない。
- 3 答えは、すべて各問題の指示にしたがって解答欄にマークすること。
- 4 一度マークしたものを訂正するときは、プラスチック消しゴムで完全に消してからマークしなおすこと。消して出たカスはきれいに払っておくこと。
- 5 次の場合は、いずれも誤答となるから特に注意すること。
 - (1) マークの仕方が悪かった場合。（特にマーク欄が塗りつぶされていなかったり、外側に少しでもはみ出した場合）
 - (2) 問題が要求している以上に余分な答えをマークした場合。
 - (3) マークすべきところ以外に印をつけたり、汚したりした場合。特に枠内は絶対に汚さないこと。
 - (4) 訂正の場合の消し方が不十分な場合。

III 氏名等の記入上の注意

- 1 問題用紙と解答用紙の両方の所定欄に、漢字で氏名を、算用数字で受験番号をそれぞれ記入すること。
- 2 解答用紙の左側にある受験番号をマークすること。

氏 名

受験番号

一 次の各問いに答えなさい。

問一 漢字の読みの間違っているものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 成就（じょうじゅ） ② 生粋（きっすい）
③ 台詞（のりと） ④ 日和（ひより）

問二 送り仮名の間違っているものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 暖かい ② 柔らかい
③ 恐れる ④ 新らしい

問三 「研究のタイシヨウに最適だ」の傍線部の漢字として正しいものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 対照 ② 対象 ③ 対症 ④ 対称

問四 仮名遣いの間違っているものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① むずかしい（難しい） ② おとづれる（訪れる）
③ てづくり（手作り） ④ じめん（地面）

問五 組み立てが異なるものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 直接 ② 購買 ③ 歓喜 ④ 希薄

問六 陰暦七月の異名を次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 如月 ② 長月 ③ 文月 ④ 神無月

問七 「寝耳に水」と同じ意味のことわざを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 転ばぬ先の杖 ② 河童の川流れ
③ 二階から目薬 ④ 藪から棒

問八 四字熟語のうち間違っているものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 言語道断 ② 同工異曲
③ 無我夢中 ④ 波乱蛮丈

問九 「穩」の部首を次より選び、番号をマークしなさい。

- ① のぎへん ② しめすへん
③ りっしんべん ④ こざとへん

問十 敬語の使い方として正しいものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① あちらの受付で伺ってください。
② 先生がお聞きになった話を教えて下さい。
③ 先ほどお客様が参られました。
④ 先生が話しました内容はとても理解出来ました。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

人間は「社会的動物」と言われている。特別な場合を除いて、単独で生きていくことは難しく、いろいろな単位のグループを形成し、それぞれのコミュニティに所属して生きている。広い意味では、われわれは社会的インフラの恩恵を受け、さまざまな社会的仕組みの中で平和にかつ安全に生活を送っている。ごく狭い意味でも、われわれはいろいろな共同作業を行って事態に対処し、その場その場をしのいでいる。人間のほかに、共同生活、集団生活を行う動物たちは数多く存在する。集団を組んで飛翔する渡り鳥や、群れて狩をする猛獣たちの姿はテレビなどでよく目にするのができ、ボスの支配のもとで集団生活をする猿の群れは、大分の高崎山をはじめとして、各所で見ることができる。

群れることにより、個では難しかった生存が可能になることもあるし、集団としての特異な能力を発揮することができる。また、群れが個々の生活を豊かにする場合も数多くある。もともと、社会を形成しその中で生きていくためには、個が勝手気ままに振舞うことは許されない。社会や生活共同体が成り立つためには集団としての秩序が必要であり、個の振舞いにある程度規制するためのルールが不可欠である。

個の集まりが互いに協力し合っている目的を効率よく達成するためには、リーダーが必要かもしれない。^③優れたリーダーの指揮のもとで、個々がそれぞれの役割を真面目に果たせば、結果として、集団としての機能は最大限に発揮され、最大の成果が得られるはずである。しかし、優れたリーダーもときには過ちを犯すかもしれないし、判断を誤るかもしれない。個々が盲目的にリーダーに従うことはある種の危険をはらんでいる。渡り鳥の集団や狩をする動物の集団にはリーダーは存在するのだろうか。また、猿の集団のボス猿はどの程度まで個々の猿の行動を規制しているのだろうか。渡り鳥や見事な集団行動をとる魚の群れにはリーダーはいない、との話を動物行動学者から聞いたことがある。集団には、リーダーは必要なのであるか、それとも不必要なのであるか。人間の創造物であるロボットの集団の場合について、この問題を考えてみよう。

ロボットの場合、1960年代に開発された産業用ロボットをはじめとし、最近のヒューマノイドロボットやペットロボットに至るまで、単体としてのロボットが話題となりその機能や働きが議論されてきた。もちろん、自動車製造ラインでは、1台の車体に数台のロボットが配置され作業を行っている。しかしよく見るとわかるように、これらのロボットはお互いに協力し合って作業を進めているわけではない。それぞれのロボットは役割分担が決まっており、他のロボットとは無関係に自分に割り当てられた作業だけを行っている。すなわち、独立に作業を行うロボットが複数台同じ作業場に配置されているだけのことであり、お互いが干渉し合わないように設置場所と作業内容は前もって慎重に計画されているに過ぎない。

作業の目的と内容は決まっているが、作業環境がきちんと整備されていないためにロボットの動作が必ずしも固定化されていない場合には、センサー情報にもとづく高度な状況判断機能が必要となり、ロボット知能化の動きが始まった。

しかし、ロボットの知能をどのように高めたとしても、単体としてはその能力に限界があることは明らかである。単体としてのロボットの機能や知能の向上に力を注ぐよりも、ある程度の機能を備えた比較的単純なロボットを数多く揃え、共同作業を行わせるほうが得な場合がある。また、**I**ではあるが**II**で作業をするロボットより、**III**ではあるが**IV**を組むことができるロボットのほうが作業の能力が拡大し、優れた効果を発揮する場もある。もちろん、**V**なロボットが共同作業を行うことができれば、その効果は何倍にも上がることは言うまでもない。

複数のロボットを互いに協調させながら動かすには二つの方法がある。一つは、1台の高機能で高知能のロボットにすべての権限を与え、他のロボットをこのロボットの指令に従わせる方法である。もう一つは、各ロボットにある程度の自主性を持たせ、それぞれのロボットが他のロボットたちと随時打ち合わせをしながら、あるいは他のロボットの動きを見ながら、自らの責任において行動する方法である。

前者は、全体の動きを統一的な方策にもとづいて決め、それに従って各ロボットの動きを割り出すので、見通しがよく、作業の効率も高い。**A** その反面、参加するロボットの台数や機能が変わるたびに、最初から方策を考え直さなければならず、融通性に乏しい。

B、中枢的な役割を果たすロボットが誤った判断をしたら、取り返しのつかない事故に発展する可能性があるし、もし、そのロボットが故障し機能しなくなったら、システム全体がまったく動かなくなる危険性がある。

C、全体の効率を追求すると信頼性が低下するという脆弱なシステムとなってしまう。このシステムは、「集中管理型ロボットシステム」と言われる。この場合も、個々のロボットの微細な動きまで、すべて中枢部で管理する形式のものから、大まかな指令を各ロボットに与え、具体的な行動は各ロボットに任せってしまうもので、さまざまなタイプが考えられる。

これに対して後者は、「自律分散^⑤(型)ロボットシステム」と呼ばれる。このシステムでは、個々のロボットが自主的に判断し行動するのが基本であるから、各ロボットは全システムの最適解に従って行動しているとは言えず、システム全体としての効率は一般にはよくない。また、他ロボットの振舞いのチェックや打ち合わせのための通信の設備、および頻繁な交信の手続きが必要である。しかし反面、環境の変化や不測の事態が発生したとしても、その時々状況に応じて各ロボットは目的達成のために精一杯努力をするはずであるから、なんとか事態をおさめることはできそうである。すなわち、システムの信頼性は高くなる。

ただ、全体を俯瞰^{※ふかん}する司令部が存在しないので、個々が限られた情報のもとで判断し行動するシステムでは、往々にして、局所的に動きがとれない状態が発生する恐れがある(個々が一番よいと信じる行動が互いにぶつかり合ってしまう状態で、デッドロック〈Dead Lock〉と言う)。デッドロックを発生させない、あるいはデッドロックが発生したときに、これを巧みに解消するためには何か特別な仕組みが必要である。ちなみに人間の場合には、デッドロックはほとんど発生しない。人間社会には、暗黙の了解、社会常識、**D**など極めて便利な仕組みがあるし、話し合いという手段も残されている。もともと、どうにも話し合いがつかなくて紛争事件に発展することもないとは言えないが、これはあくまで例外である。

一般に、システムの効率化を追求すると、どうしてもシステムは脆^{もろ}くなりがちである。システムの頑健性(ロバスト性)を保とうとすると、効率化はある程度犠牲にしなければならない。

ロボットは極めて複雑な機械システムであり、それ自身が脆弱さを内包している。それらが複数台集まって共同作業を行うことを考え

ると、システム全体の信頼を高め、安心して仕事を任せられるようにするためには、多少効率性を損ねたとしても、自律分散システムのほうが好ましいことは容易に理解できる。問題は、自律分散システムを構築するために必要な余分なコストが、作業全体にかかるコストに比較して妥当なものであるかどうかの判断である。

※俯瞰…全体を上から見ること。

（長田正『ロボットは人間になれるか』）

問一 コミュニティ ①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪
⑫
⑬
⑭
⑮
⑯
⑰
⑱
⑲
⑳
㉑
㉒
㉓
㉔
㉕
㉖
㉗
㉘
㉙
㉚
㉛
㉜
㉝
㉞
㉟
㊱
㊲
㊳
㊴
㊵
㊶
㊷
㊸
㊹
㊺
㊻
㊼
㊽
㊾
㊿
のいであるの意味を次より選び、それぞ
れ番号をマークしなさい。

① コミュニティ
② 情報網
③ 理想郷
④ 個人性
⑤ 共同体

②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪
⑫
⑬
⑭
⑮
⑯
⑰
⑱
⑲
⑳
㉑
㉒
㉓
㉔
㉕
㉖
㉗
㉘
㉙
㉚
㉛
㉜
㉝
㉞
㉟
㊱
㊲
㊳
㊴
㊵
㊶
㊷
㊸
㊹
㊺
㊻
㊼
㊽
㊾
㊿
のいである

- ① 適当にやり過ぎしている
② なんとか切り抜けている
③ 余裕を持って対処している
④ 臨機応変に対応している

問二 リーダーが必要かもしれないについて「必要だ」と言い切
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪
⑫
⑬
⑭
⑮
⑯
⑰
⑱
⑲
⑳
㉑
㉒
㉓
㉔
㉕
㉖
㉗
㉘
㉙
㉚
㉛
㉜
㉝
㉞
㉟
㊱
㊲
㊳
㊴
㊵
㊶
㊷
㊸
㊹
㊺
㊻
㊼
㊽
㊾
㊿
っていない理由として最も適切なものを次より選び、番号
をマークしなさい。

- ① リーダーも人間なので、時には間違える事があり、全面的には信用できないから。
② 動物の世界ではリーダーが存在しないことの方が多く、むしろ個々の判断が重要視されているから。
③ リーダーの存在は集団にとって良い面も悪い面もあり、必要性について検討の余地があるから。
④ リーダーのもとで集団生活をし、自分たちが豊かになった後にはリーダーは必要なくなるから。

問三 これらのロボットはお互いに協力し合って作業を進めてい
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪
⑫
⑬
⑭
⑮
⑯
⑰
⑱
⑲
⑳
㉑
㉒
㉓
㉔
㉕
㉖
㉗
㉘
㉙
㉚
㉛
㉜
㉝
㉞
㉟
㊱
㊲
㊳
㊴
㊵
㊶
㊷
㊸
㊹
㊺
㊻
㊼
㊽
㊾
㊿
るわけではない理由として最も適切なものを次より選び、
番号をマークしなさい。

- ① 個々に作業を行っているロボットが何台も同じ作業場に配置されているだけだから。
② ロボットは人間のように「協力する」という概念を持っていないから。
③ ロボット単体としての性能がますます高くなり、協力し合わなくても十分に作業できるから。
④ 自動車製造ラインではセンサー情報などを使いロボット
の知能化が図られているから。

問四 I V
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪
⑫
⑬
⑭
⑮
⑯
⑰
⑱
⑲
⑳
㉑
㉒
㉓
㉔
㉕
㉖
㉗
㉘
㉙
㉚
㉛
㉜
㉝
㉞
㉟
㊱
㊲
㊳
㊴
㊵
㊶
㊷
㊸
㊹
㊺
㊻
㊼
㊽
㊾
㊿
に当てはまるものを次より選び、番号
をマークしなさい。(なお、同じ記号を何度使ってもよい)

- ① 個人
② 集団
③ 高級
④ 単純
⑤ 単独
⑥ 便利

問五 A C
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪
⑫
⑬
⑭
⑮
⑯
⑰
⑱
⑲
⑳
㉑
㉒
㉓
㉔
㉕
㉖
㉗
㉘
㉙
㉚
㉛
㉜
㉝
㉞
㉟
㊱
㊲
㊳
㊴
㊵
㊶
㊷
㊸
㊹
㊺
㊻
㊼
㊽
㊾
㊿
に当てはまるものを次より選び、番号
をマークしなさい。

- ① しかし
② あるいは
③ 要するに
④ なぜなら
⑤ ところで
⑥ しかも

問六

⑤ 後者が指す内容として適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 集中管理型ロボットシステムと呼ばれる方法
- ② 一台のロボットが他のロボットに指令を与える方法
- ③ 他のロボットと随時打ち合わせをしながら個々の責任で行動する方法
- ④ 機能が変わるたびに最初から方策を考え直す方法

問七

D に当てはまる四字熟語を次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 以心伝心
- ② 朝三暮四
- ③ 異口同音
- ④ 一期一会

問八

⑥ システムは脆くなりがちの説明として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 効率性を求めると、デッドロックが発生し、紛争がおこる可能性が出てきてしまうということ。
- ② 効率性を求めると、システムの信ぴょう性が高くなるということ。
- ③ 効率性を求めると、環境の変化や不測の事態が発生しても状況に応じた努力ができるということ。
- ④ 効率性を求めると、何か問題が起こった時にシステム全体が動かなくなる危険性があるということ。

問九

筆者の主張と合致する最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① ロボットを協調して働かせるために、自律分散システムを採用すれば、すべての問題は解決する。
- ② ロボットを協調して働かせようと考えること自体が間違いであり、人間以上に効率よく働くロボットを作ることには難しい。
- ③ 複数のロボットを働かせる時には自律分散システムが好ましいが、非効率的な面があるのでコストがかかりすぎないようにしなければならない。
- ④ 多くのロボットが一緒に作業をするには、ロボット同士が干渉し合わないよう前もって慎重に計画を立てる必要がある。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

その日から私は病院にいく前に、書店めぐりをして歩いた。繁華街や、隣町や、電車を乗り継いで都心にまで出向いた。いろんな本屋があった。雑然とした本屋、歴史小説の多い本屋、店員の親切な本屋、人のまったく入っていない本屋。しかしそのどこにも、おばあちゃんのさがす本はなかった。

手ぶらで病院にいくと、おばあちゃんはきまって落胆した顔をする。^①何か意地悪をしているような気持ちになってくる。「あなたがその本を見つけてくれなけりや、死ぬに死ねないよ」

あるときおばあちゃんはそんなことを言った。

「死ぬなんて、そんなこと言わないでよ、縁起でもない」

言いながら、^②はっとした。私がもしこの本を見つけたさなければ、おばあちゃんは本当にもう少し生きるのでないか。ということは、見つからないほうがいいのではないか。

「もしあなたが見つけだすより先にあたしが死んだら、化けて出てやるからね」

私の考えを読んだように、おばあちゃんは真顔で言った。

「だって本当じゃないだよ。新宿にまでいったんだよ。いったいいつの本なのよ」

本が見つかることと、このまま見つけられないことと、^③どっちがいいんだろう。そう思いながら私は^④を尖らせた。

「最近の本屋つてのは本当に困ったもんだよね。少し古くなるといい本だろうがなんだろうがすぐひっこめちゃうんだから」

おばあちゃんがそこまで言いかけたとき、母親が病室に入ってきた。おばあちゃんは口をつぐむ。母はポインセチアの鉢を抱えていた。手にしていたそれを、テレビの上に飾り、^⑤おばあちゃんに笑いかける。母はあの日から泣いていない。

「もうすぐクリスマスだから、気分だけでもと思って」母はおばあちゃんをのぞきこんで言う。

「あんた、知らないのかい、病人に鉢なんか持つてくるもんじゃないんだよ。鉢に根付くように、病人がベッドに寝付いちまう、だから縁起が悪いんだ。まったく、いい年してなんにも知らないんだから」

母はうつむいて、ちらりと私を見た。

「クリスマスっぽくていいじゃん。クリスマスが終わったら私が持つて帰るよ」

母をかばうように私は言った。おばあちゃんの乱暴なもの言いに私は慣れているのに、もっと長く娘をやっている母はなぜか慣れていないのだ。

案の定、その日の帰り、タクシーのなかで母は泣いた。またもや私は、^⑥ひ、と思う。

「あの人は昔からそうなのよ。私のやることなすことすべてにけちをつける。よかれと思ってやっていることがいつも氣にくわないの。私、何をしたらあの人にお礼を言われたことなんかないの」

タクシーのなかで泣く母は、クラスメイトの女の子みたいだった。母の泣き声を聞いていると、心がスポンジ状になって濁った水を吸い上げていくような気分になる。

あああ、と私は思った。これからどうなるんだろう？ 本は見つかるのか？ おばあちゃんは死んじゃうのか？ おかあさんとおばあちゃんは仲良くなるのか？ なんにもわからなかった。だって私は十四歳だったのだ。

クリスマスを待たずして、おばあちゃんは個室に移された。点滴の数が増え、酸素マスクをはめられた。それでも私はまだ、おばあちゃんが死んでしまうなんて信じられないでいた。病室では笑っている母は、家に帰ると毎日のように泣いた。おばあちゃんが個室に移されたのは、私が鉢植えを持っていったからだと言って泣いた。

その年のクリスマスは冷え冷えとしていた。私が夏から楽しみにしていた母のローストチキンは黒こげで食べられたものではなかったし、ケーキに至っては砂糖の量を間違えたのかまったく甘くなかった。クリスマスプレゼントのことはみんな忘れているようで、私は何ももらえなかった。

そうして例の本も、私は見つけれずにいた。

クリスマスプレゼントにできたらいいと思って、私はさらに遠出をして本屋めぐりをしていたのだが、そのなかの一軒で、年老いた店主が、たぶん絶版になっていると教えてくれた。昭和のはじめに活躍した画家の書いた、エッセイだということも教えてくれた。それでそれまで入ったこともなかった古本屋にも、足を踏み入れていたというのに。

黒こげチキンの次の日、冬休みに入っていた私は朝早くから病院にいった。見つけれなかった本のかわりに、黒いくまのぬいぐるみを持っていった。

「おばあちゃん、ごめん、今古本屋さがしてる。かわりに、これ」

おばあちゃんはずいぶん痩せてしまった腕でプレゼントの包装をとき、酸素マスクを片手で外して

I と言う。

「まったくあんたは子どもだね。ぬいぐるみなんかもらったってしょうがないよ」

これにはさすがに X ときて、個室なのをいいことに、私は怒鳴り散らした。

「おばあちゃん、わがまますぎるっ。ありがとくらい言えないのっ。私だって毎日毎日日本屋歩いてるんだから。古本屋だって、入りづらいのにがんばって入ってるんだから。古本屋に私みたいな若い子なんかいないのに、それでも入ってって、愛想の悪いおやじにメモ見せて、がんばってさがしてるんだからっ。それにっ、おかあさんにポインセチアのお礼だって言いなよっ」

おばあちゃんは目玉をばちくりさせて私を見ていたが、突然笑い出した。私の覚えているよりは数倍弱々しい笑いではあったけれど、それでもすごくおかしそくに笑った。

「あんたも言うときは言うんだねえ。なんだかみんな、やけにやさしいんだもん、調子くるってたの。美穂子なんかあたしが何か言うと目くじらたてて言い返してきたくせに、やけに素直になっちゃって」

美穂子というのは私の母である。外した酸素マスクをあごにあてて、おばあちゃんは窓の外を見て、ちいさな声で言った。

「あたし、もうそろそろいくんだよ。それはそれでいいんだ。これだけ生きられればもう充分。けど氣にくわないのは、みんな、美穂子も菜穂子も沙知穂も、人がかわったようにあたしにやさしくするってこと。ねえ、いがみあってたら最後の日まで人はいがみあってたほうがいいんだ、許せないところがあつたら最後まで許すべきじゃないんだ、だってそれがその人とその人の関係だろう。相手が死のうが何しようが、むかつくことはむかつくって言ったほうがいいんだ」

おばあちゃんはそう言つて、酸素マスクを口にあてた。くまのぬいぐるみを、自分の隣に寝かせて、目を閉じた。くまと並んで眠るおばあちゃんは、おさない子どもみたいに見えた。

おばあちゃんは、翌年になってから死んだ。眠るように死んだ。クリスマスからずっと隣に寝かせていたぬいぐるみは、おばあちゃんの棺のなかに入れられた。おばあちゃんといっしょに煙になって空にのぼっていった。

そうして私は、ついに本を見つけることができなかったのだ。

お通夜の夜も、告別式の日も、私は泣かなかつた。おばあちゃんが死んでしまつてさえ、死んだなんて信じられなかつたのだ。親戚のだけれが、泣かない私を見て何か言つていたのは知つてゐる。あんなに毎日病院にいつていたのに、涙ひとつこぼさないなんて、強い子だとかなんとか。

私は強くなかない。ただおばあちゃんが死んだことを信じていないだけだ。だって、私はまだあの本を見つけていないんだから。私が見つけないや、死ぬに死にきれないつておばあちゃんは言つていたんだから。

それで、その後も私はあの本をさがし続けた。学校が終わると、電車に乗つて知らない町を目指して、降りたことのない駅で降りて本屋か古本屋をさがす。おかげでめつきり友達が少なくなつてしまつた。部活も入つていないし、放課後のおしゃべりにも加わらないからけれど、さがすのをやめるわけにはいかなかつた。

本は見つからないまま、私は中学三年生に進級した。

春の夜だつた。私の部屋の窓からは、通りに植えられた桜がほんの少しだけ見える。街灯に照らされて、花びらは白くしんと動かない。受験勉強に飽きて夜の桜を見るときもなく眺めていると、肩を叩かれた。びっくりしてふりむくと、おばあちゃんが立っているのもっと驚いた。ぎよえ、と声を出してしまつたくらいだ。

「ぎよえ、じゃないよまつたく。本はどうなつたのさ」

おばあちゃんはいかわずの口調で言つた。棺のなかで着ていた白い着物ではなくて、私がちいさいころによく着ていた、深緑の着物を着ていた。驚きのあまりなんにも言えない私をのぞきこんで、おばあちゃんにはやにやと笑う。

「言つただろ、見つけなければ化けて出るつて。見つかつたのかい」

私は首を横にふった。おばあちゃんはため息をつき、私のベッドに腰掛けた。ベッドに腰掛ける幽霊。
「おばあちゃん、けど、なんでその本をそんなに一生懸命さがしているの」

私は言った。

「なんであつて、読みたいからさ。それだけだよ」

「おばあちゃん、幽霊になつたらあちこち移動できるんでしょ、自分でさがしたらどうか」

ふつうに会話ができると、驚きも恐怖心もみるみるうちにしぼんだ。幽霊がこわいのはきつと知らない人だからだ。見知った人なら、幽霊だつて妖怪^{ようかい}だつてこわくないものらしい。

「あのね、なんであたしが幽霊になつてまで本屋にいつて棚をのぞかなきゃなんないの。そういう^⑪ 面倒なことは、生きている人間のやることだよ」

「そりゃそうかもしれないけど……」

おばあちゃんはベッドに腰掛けて窓の外をじっと眺めていた。目線の先を追うと、街灯に照らされた桜があつた。

「桜はいいねえ」しみじみと言う。

「おばあちゃん、あの、死ぬのこわかった？」

私は思いきつて訊いた。おばあちゃんは私を見、

「こわいもんか」と Y をはった。「死ぬのなんかこわくない。死ぬことを想像するのがこわいんだ。いつだつてそうさ、できごとより、考えのほうが何倍もこわいんだ」

「じゃあさ、あの……」

なおも質問を続けようとすると、おばあちゃんは II 立ち上がった。

「あんまり無駄口叩いてると叱^{しか}られるんだ。目をつけられたらあんたんとこにこられなくなる。本、くれぐれもよろしく頼んだよ。また様子見にくるから」

そう言い残し、窓を開けて棧^{さん}をよたよたとまたぐ。あつ、と思ったときにはおばあちゃんは消えていた。おばあちゃんの消えた窓の外、白い桜と、濃紺の夜空があつた。

問一

① 何か意地悪をしているような気持ちになってくるとあるが、その理由として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 意図せずにはあるものの、おばあちゃんの気分を落ち込ませていることに謝りたい気持ちになるから。
- ② おばあちゃんの顔を見ると、幼い頃の思い出がよみがえり、心の底では仕返しをしたかったのだと感じるから。
- ③ いつも憎まれ口をきくおばあちゃんが本のことになると途端に弱気になり、力関係がはつきりするから。
- ④ 期待させて期待に答えられない自分が、おばあちゃんをがっかりさせていると感じるから。

問二

② はっとしたとはどういうことを説明したものとして最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 周囲からの助言により新たな考えが思いつき得意になる様子。
- ② 突然の思いつきに自分自身で恐れおののく様子。
- ③ これまで考えたこともなかったことを思いつき驚く様子。
- ④ 何の根拠もない思いつきではあるが、最善の方法であると感嘆する様子。

問三

③ どっちがいいんだろうに表れる私の気持ちとして最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 本が見つからないことと、死ぬことと、どちらがおばあちゃんにとって不幸なのかとためらう気持ち。
- ② 幽霊となったおばあちゃんに会ってみたいという好奇心。
- ③ おばあちゃんは本当は死にたくないなので無理難題を私に押し付けているのではないかと疑う気持ち。
- ④ 自分の命と引き換えに、一冊の本に執着するおばあちゃんに対する困惑。

問四

④ 私は を尖らせたを「不服そうな顔をする」という意味となるよう、 に入れるのに最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 心
- ② 目
- ③ 声
- ④ 口

問五

おばあちゃんに笑いかける時の母の心情として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① これまで親の言うことを何一つ聞いてこなかったことを激しく後悔している。
- ② もうすぐ死んでしまう母親に対して、少しでも優しく接し親孝行をしよう。
- ③ 母親に残されたわずかな時間が穏やかでゆっくりとしたものになるよう全力を尽くそう。
- ④ 娘の不安そうな顔を見ると、自分がしっかりと母親を支えていかなければならない。

問六

I、II に入れるのに最も適切なものを次より選び、それぞれ番号をマークしなさい。

- | | | |
|--------|--------|--------|
| ① ふっと | ② すっと | ③ もじもじ |
| ④ ほそほそ | ⑤ ばしばし | ⑥ そっと |
| ⑦ ずけずけ | ⑧ はたと | |

問七

X、Y に適語を入れ、慣用句を完成させるのに最も適切なものを次より選び、それぞれ番号をマークしなさい。

- | | | | |
|------|------|-------|-------|
| ① びん | ② むっ | ③ かちん | ④ ぶちん |
| ⑤ 胸 | ⑥ 水 | ⑦ 気 | ⑧ 体 |

問八

⑥ ひ、と思うに表れる私の心情として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 困惑
- ② 悲哀
- ③ 恐怖
- ④ 痛恨

問九

突然笑い出したとあるがその理由として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① もうすぐ死んでしまうということがわかって、皆が優しくしてくれることにいらだちを覚えていたが、孫娘とけんかをして吹っ切れたから。
- ② 死ぬ間際の自分に娘たちは急に態度を変えたが、孫娘だけはこれまでと変わらずに遠慮なく接してくれることに喜びをかみしめたから。
- ③ 娘たちが自分とどう接したらよいかわからず、迷い遠慮している様子がわかるのに、孫娘の考えていることがさっぱりわからずおかしくなったから。
- ④ 周囲にこれまで通り自分と接してほしいと思う一方、気を使ってもらうことに安心感を覚えていたことに気づかされ、滑稽に感じたから。

問十

私は泣かなかったとあるが、その理由として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 死んでも死にきれないというおばあちゃんの言っていたことを思い出し、私にはまだ本を探すという使命があると感じ込んでいたから。
- ② 私が本を見つけないとおばあちゃんは死ねないと言っていたことを信じて、おばあちゃんはまだ生きていると思っていたから。
- ③ 本を見つけないという約束をまだ果たしていない以上、おばあちゃんが死ぬわけではないと、おばあちゃんの死を現実を受け止めていなかったから。
- ④ 毎日病院にお見舞いに行く中で、おばあちゃんが死んでも本を探し続けること、おばあちゃんの葬儀には笑顔で見送ることを約束していたから。

問十一

⑨ さがすのをやめるわけにはいかなかったとあるがその理由として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 生前おばあちゃんが遺した「死んでも死にきれない」という言葉通りに、幽霊となって出てくるおばあちゃんに本を催促されたから。
- ② たとえおばあちゃんが死んでしまった後でも、約束を果たさないままではおばあちゃんが浮かばれないと思ったから。
- ③ 最初は仕方なく探していた本が絶版になっていて、エッセイであること等、少しずつ情報が集まってきたから。
- ④ 本を探し続けるうちに、本屋めぐりが楽しくなり、友人たちよりも、行く先々で出会う人との交流に心が奪われてきたから。

問十二

⑩ 驚きも恐怖もみるみるうちにしぼんだとはどういうことを説明したものとして最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 恐怖心というものは未知のものに対する感情であると実感したということ。
- ② 長い間慣れ親しんだおばあちゃんの幽霊は生前と変わりがなくて全く怖くなかったということ。
- ③ 生きているときと変わらないおばあちゃんの幽霊に拍子抜けしたということ。
- ④ 昔と変わらないおばあちゃんの姿に夢でも見ているようで現実味がなかったということ。

問十三

⑪ 面倒を「ひどく面倒なこと」という意味になるよう、 に入れるのに最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 一
- ② 七
- ③ 八
- ④ 百

四 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

これも今は昔、田舎^{みなか}の児^{ちご}の比叡^{ひえ}の山へ登りたりけるが、桜^①のめでたく咲きたりけるに、風の激しく吹きけるを見て、この児^②さめざめと泣きけるを見て、僧のやはら寄りて、「などかうは泣かせたまふぞ。この花の散るを惜しう覚えさせたまふか。桜ははかなきものにて、かく程なく移ろひ候^{まぐら}ふなり。されども、さのみぞ候^③ふ」と慰め^{なぐさ}ければ、「桜の散らんは、あながちにいか^④がせん、苦しからず。わが父^ての作りたる麦の花の散りて、実の入らざらん思ふがわびしき」と言ひて、さくりあげて、よよと泣きければ、うたてしやな。^⑤

〔宇治拾遺物語〕

問一 桜のめでたく咲きたりける ④
 ① 桜のめでたく咲きたりける ④
 ② 桜のめでたく咲きたりける ④
 ③ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ④ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ⑤ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ⑥ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ⑦ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ⑧ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ⑨ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ⑩ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ⑪ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ⑫ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ⑬ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ⑭ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ⑮ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ⑯ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ⑰ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ⑱ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ⑲ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ⑳ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ㉑ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ㉒ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ㉓ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ㉔ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ㉕ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ㉖ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ㉗ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ㉘ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ㉙ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ㉚ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ㉛ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ㉜ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ㉝ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ㉞ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ㉟ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ㊱ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ㊲ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ㊳ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ㊴ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ㊵ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ㊶ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ㊷ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ㊸ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ㊹ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ㊺ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ㊻ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ㊼ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ㊽ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ㊾ 桜のめでたく咲きたりける ④
 ㊿ 桜のめでたく咲きたりける ④

① 桜のめでたく咲きたりける

② 桜の花が目立つように咲いていた。

③ 桜の花が少しずつ咲き始めていた。

④ 桜の花が儀式のために咲かせていた。

⑤ 桜の花が見事に咲いていた。

⑥ 桜の花が見事に咲いていた。

⑦ 桜の花が見事に咲いていた。

⑧ 桜の花が見事に咲いていた。

⑨ 桜の花が見事に咲いていた。

⑩ 桜の花が見事に咲いていた。

問二 風の激しく吹きけるを見てを単語に区切ると全部でいくつに区切れるか、最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

① 六つ

② 七つ

③ 八つ

④ 九つ

問三 さのみぞ候ふにおいて僧が見に伝えたかったこととして最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

① 桜の花も散ってしまえばそこまでということ。

② 桜の花は特に散り際が美しいということ。

③ 桜が散るのは万物無常の定めであるということ。

④ 桜だけでなく、花を愛でる姿勢は風流心に繋がるということ。

問四 うたてしやなどは誰の気持ちを表したもののか、最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

① 児

② 僧

③ 父

④ 作者

問五 本文の内容と合致するものを次より選び、番号をマークしなさい。

① 田舎出身の児は桜が散ることを嘆くのではなく、麦が実らないことを嘆いていた。

② 桜の散る様子を麦の花の散る様子を重ね合わせた児が感激して泣いてしまった。

③ 桜の散る様子を見て児が感動していると勘違いした僧は、この児の風流心に感動した。

④ お互いの思惑が合わないことは、この世の中に多くあることを作者は納得している。

問六 「宇治拾遺物語」と同じく鎌倉時代に成立した作品を次より選び、番号をマークしなさい。

① 方丈記

② 源氏物語

③ 更級日記

④ 奥の細道